

令和2年度 外部研修報告書

大阪中之島美術館準備室 外部研修生
田中 望愛（梅花女子大学・3年）

研修の目的

建設中の大阪中之島美術館の前を通りかかって興味を持ち、ホームページを確認し、外部研修生の募集を見つけた。参加目的は、日々利用者として訪れる美術館において、美術作品や資料が我々の目に触れるまでどのように整理し、保管されているのか、その過程を知り学ぶためである。また、大阪中之島美術館が作品以外に収集し所蔵するアーカイブ資料を整理し、データベースを作成する実務について知るために本研修への参加を希望した。

研修日程

令和3年2月1日から令和3年3月16日までの全16日間

研修内容

本研修の過程ではアーカイブ担当学芸員の松山さんから指導を受け、大阪中之島美術館が所蔵するアーカイブズ資料の整理作業と、外部からの検索可能にするカタログデータの作成をした。これらの作業をする目的は、検索可能になったデータを使って、作者や作品についてよりよく理解したり、研究していくためである。

研修初日には、アーカイブズ資料についてや整理の手順、アーキビストという仕事についての講義があった。まず、アーカイブは、アーカイブズ、アーカイビングという言葉で表すこともある。加えて、アーカイブズは企業や団体等の組織から生成された文書、個人の記録や手紙など、様々な内容や形態からなる資料そのものを指すことがある。加えて、それらの資料を次世代に継承するために保管する施設自体を指す言葉なのだと知った。そして、アーキビストはアーカイブズ資料の収集、分類や保管するための業務を行う職業であることを知った。アーカイブ資料やアーキビストという職業に関して予備知識がなかったが、非常にわかりやすく丁寧な講義により楽しく学ぶことができた。

研修2日目以降には実務研修を実施した。研修では2つの資料群に対して資料整理とデータベースへの記述作業を行ったが、資料整理や、文字や情報化するには手順がある。大まかに説明すると以下の通り4つの手順がある。まずインベントリを作成する。インベントリとは英語で在庫調査や目録という意味がある。この作業は、資料の状態や数量、内容について確認する初めの作業になり、データベースに記述するためにも重要である。従って、もしも元の秩序を保っていない資料群に関しては、作業中に内容や形態から、把握しやすい秩

序を与え、記述しておく必要がある。次に資料群の編成計画を作成する。その後、処理作業を実施する。処理作業には、リハウジングと情報取得がある。具体的には、資料の保存に適した場所に資料を移しかえながら資料の内容を詳細に確認する作業となる。ちなみにリハウジング作業は、長期的に資料の形態を保ち、劣化を抑制することを可能にする。そして最後にデータベースへの登録作業を行うというものである。私にとって全ての作業が初めてであったが、作業の各行程を詳細まで聞くことができたので、円滑に作業を進めることができた。具体的には、様々な形態の資料（紙、紙焼きの写真やネガなどをどのようにリハウジングすれば長期保存ができるのか、資料内容の検討をしながらインベントリや編成計画を作成し、データベースへ記述するための文章を思案するなど、実際データベースへ登録する方法を学ぶことができたのが印象的である。また、どの資料を扱うときにも、貴重な資料を扱っているんだという緊張を常に感じていた。そして、資料の状態を保ちながら、適切な保存箱へと綺麗に収まったときや、データベースに資料群の登録が完了したときには非常に達成感を感じたと同時に、さらに多くの資料に出会いたいという新鮮な気持ちが溢れた。

感想

私は幼い頃から書道を習っているため、美術や音楽などの芸術に興味を持っている。従って、美術館によく足を運び、作品そのものはもちろん、裏付になる様々な資料に非常に価値があると常々考えていた。本研修への参加により、美術館が収集した作品や資料を適切に整理し、大切に保管していることを実際に知り、アーカイブズ資料が、美術に興味があったり、研究する人々目に触れるまでに、どのような過程があるのかを具体的に学ぶことができた。そして、日々芸術に親しみ、学ぶことができているのは学芸員のみなさまのご尽力によるものだと改めて感じた。

最後に、本研修を通して美術館の内側からアーカイブズについて知り、芸術を愛して作品やその周辺に存在している資料や事実を大切に、次世代へ継承していきたいという気持ちが高まり、図書館情報学やアーカイブズ学について学んでみたいという気持ちが芽生えた。今後は、研修中の経験や学びを生かしながら、作家活動のみならず、学芸員の方のように、作品や関係する資料の普及にも関わることで、人々が芸術を大切にしようとする心を育む側になってみたいと感じた。大学最後の春休みに、自分の視野や可能性を広げるような貴重な学びや経験を得ることができた充実感を感じるとともに、郷土や伝統を大切にしながらも、芸術を次世代へ継承していく架け橋になったり、大阪在住の作家のプラットフォームになるような、大阪中之島美術館の開館がさらに待ち遠しくなった。